

●鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第4回）を開催しました

鎌倉市は平成28年度末までの本庁舎整備方針の策定をめざし、取組を進めています。

■鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第4回）

市民の視点やアイデアを本庁舎整備方針に取入れるために、市民対話（全5回開催予定）の取組を進めており、第4回市民対話を開催しましたので、その概要をお知らせします。

■開催概要

第4回市民対話は、これまでの市民対話で出された意見を本庁舎に対する市民の想いとしてまとめいく作業について、編集会議をイメージして行いました。最初に、第3回市民対話協働・拡張ワークショップで出された未来の本庁舎に求める像や現在の本庁舎のある場所にあってほしい機能などについてのアイデアを全体で整理した後、グループに分かれ、現在の本庁舎と本庁舎のある場所、本庁舎のあるべき姿、現本庁舎の場所で起きてほしいことについてまとめていきました。

日 時： 平成28年10月30日（日）

9時30分～12時00分

会 場： 鎌倉市役所 第4分庁舎2階 822会議室

参加者： 計10名（市民対話メンバー7名、神奈川大学学生3名）

テーマ： 本庁舎に対する市民の想いを編集する

次 第：

個人作業 協働・拡張ワークショップの成果を読み込み、共感度の高いメッセージを整理する。

全体対話1 3つのテーマごとに、中核としたいメッセージを選抜していく。

- ・現在の本庁舎と本庁舎のある場所
- ・本庁舎のあるべき姿
- ・現本庁舎の場所で起きてほしいこと

グループ対話 3つのテーマをもとに、グループでヘッドライン（見出し）を検討する。

全体対話2 各グループの成果を共有後、全体構成を確認する。



協働・拡張 WS のアイデアから共感できるものを抽出



抽出したアイデアを全体で共有



3 グループに分かれてヘッドライン検討



検討結果をもとに全体で意見交換

編集会議の様子

■対話の主な内容

これまでの市民対話で出されたアイデア等を次の3つのパートで整理しました。

□PART 1. 現在の本庁舎と本庁舎のある場所

(1) ヘッドライン

「暗い (K)、もったいない (M)、キケン (K)、利用しない・レア (R)」(鎌倉のアルファベットと一致)

(2) 主なアイデア等

○本庁舎の雰囲気

- ・困っている人に親切ではない。 ・何となく暗い。
- ・わかりづらい、近づきづらい。 ・建物が古い。
- ・単に手続きをする場で、市民として来る機会が少ない。
- ・職員の執務環境が悪い。
- ・観光客に対するサービスが見えない。

○本庁舎のある場所

- ・鎌倉の中心地で、鎌倉らしい場所。 ・アクセスが良い。
- ・土地の使い方がもったいない。(駐車場が多すぎる)
- ・交差点からの眺めが悪い。(交番や樹木が視線を邪魔している)
- ・本庁舎の高さが景観を邪魔している。
- ・周辺の景観と溶け込んでいる。 ・災害対策本部には向かない。



PART 1のまとめ

□PART 2. 本庁舎のあるべき姿

(1) ヘッドライン

①災害に強い場所であるべき

②可変性があるべき(持続性がある、将来にも対応できる場)

③市民活動を育てる場でありたい

④働きたい魅力ある職場、明るい職場

⑤手続きの場から相談できる場(用事がなくても行ける場)

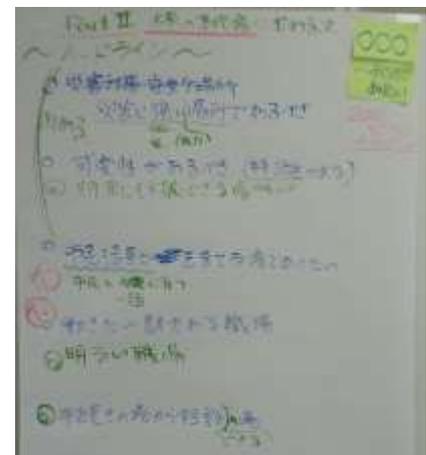
(2) 主なアイデア等

○本庁舎のハードについて

- ・市役所は市民利用施設等と複合化してもよい。
- ・将来フレキシブルに使えるようにした方がよい。
- ・議会は現在地に残すかどうか?
- ・市民の窓口と業者の窓口は、場所が分かれてもよい。

○本庁舎の機能について

- ・文化を発信するところであるべき。
- ・コミュニティのシンボルとなるものが良い。
- ・市民生活について発信する機能。
- ・本庁舎の機能は変化しており、可変的なものにすべき。



PART 2のまとめ

- ・手続きから相談できる場所へ変えていく。
- ・困っている人に対応することが大切。

○その他

- ・市のビジョンや将来の人口推計も考慮した配置にすべき。
- ・整備の費用が掛かることも考えるべき。
- ・働きたいと思う職場に。
- ・災害対策の観点から、安全な場所にあるべき。

□PART 3. 現本庁舎の場所で起きてほしいこと

(1) ヘッドライン

- 『ぶらっとうらかま』（市民のための場＝うらかま）

(2) 主なアイデア等

○市民の居場所をつくる

- ・市民活動を活性化する所になってほしい。
- ・市民の趣味や活動の場として、図書館や体育館、文化交流機能などがあると良い。
- ・自由に立ち寄れる居心地の良い場所になると良い。
- ・市民と観光客の交流による化学反応が起こる機能が良い。
- ・休憩できるベンチや、屋根のある公園が適している。
- ・鎌倉野菜を売ったり、市民が集まって交流を生んだりできるマルシェ。

○「うらかま」の雰囲気の良いを活かす

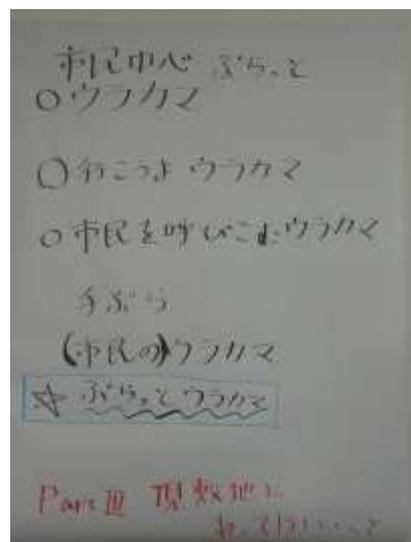
- ・鎌倉駅西口側を地元の方は「裏駅」と呼んでいる。
- ・「うら」という表現にはネガティブなイメージもあるが、通な人が足を運ぶようなポジティブなイメージもある。
- ・シビックエリアの落ち着きある雰囲気や緑が、ホッとするイメージを生んでいる。
- ・「うらかま」のキーワードを売りにし、鎌倉に何度か来た通な人が集まれる場にする。

○文化発信機能をもたせる

- ・文化を発信するところができるとう良い。
- ・鎌倉街道の中心であり、歴史や文化の価値を活かせるとう良い。
- ・中央図書館や御成小学校と一体となった文化的・学術的なエリアとする。

○民間事業者に貸す

- ・市役所通り沿いには店舗を配置する。
- ・現況法規制では現敷地での高層化は難しいが、経済活動を生む使い方をしていくべき。



PART 3のまとめ

■今後の進め方

これまでに行われた4回の市民対話で得られた市民の皆さまの本庁舎への考え方やアイデアは、次回の市民対話（第5回・12/4（日）開催予定）において、市民の想いとしてまとめる予定です。これは鎌倉市本庁舎整備方針策定委員会にも共有され、本庁舎整備を進めるうえでの大切な資料になります。